

授業科目名	リハビリテーション看護学臨地実習	担当教員	◎鵜沢淳子、有家香
選択	開講年次：4年前期	単位：1単位	授業形態：臨地実習 45時間

【授業概要】

リハビリテーション病院や外来のリハビリテーションサービスにて、理学療法チームと共同で、回復期の患者にふさわしい治療のフレームワークを模索する。その中で、心身の機能、構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした人とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築してゆく過程を支援するための看護を実践する。

【授業目的・目標】

1. 多職種からなるリハビリテーションチームの中での看護師の役割を追求する。
2. 代表的な理学療法の疾患を持っているケースを受け持ち、根拠に基づいたリハビリテーション看護を実践する。

【履修条件】

「リハビリテーション看護学」を修得していること

【授業計画】

実習1日目 病院オリエンテーション、自己学修
 実習2～4日目 各リハビリテーションスタッフと同行し見学、午後から患者へのインタビュー
 実習5日目 病院でのまとめの発表、カンファレンス、面接評価

【教科書】

指定なし

【参考書】

リハビリテーション看護学で使用したテキスト、各領域実習で学習した教科書および資料を用いる。

【評価方法・評価基準】

課題レポート (50%)、実習目標への到達度による評価 (30%)、実習態度(20%)の総合評価とする。

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：リハビリテーション看護学での学びと各領域での学習内容を統合させ、リハビリテーションを受けている対象者に対して必要な看護とリハビリテーションにおける看護師の役割についてまとめる。

事後学習：実習終了後に1日を振り返り、体験したことや気づいたことを振り返り記述する。実習での学びと事前学習での学びを統合させ、課題レポートとして記述する。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅷ. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については、統合実習開始前に学生個人に返却する（掲示により連絡）

【備考】